



特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワークの
概要

1. 概要

名 称：特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク（略称：UNN）

※「うつくしま」とは、「美しい福島」という意味です。

理事会：理 事 長 樋口葉子（県南、子育て支援）

副理事長 鈴木伸司（会津、市民活動）、相楽昌男（県中、環境）

理 事 三田真理子（県中、多文化共生）、鈴木隆将（県中、若者支援）
鈴木和隆（事務局長）

（理事は、現在6名。9人まで増員予定。）

監 事：蛭川靖弘（会津）・諸橋鑑一郎（いわき）

参 与：現在空席、近々選出予定

職 員：10人（増員予定）

地域スタッフ：14人（原則として、7つの方部に各2名配置）

客 員 研究員：3人（増員予定）

黒澤健介（協働）、加藤麻子（SDGs）、中潟亮兵（クラウドファン
ディング）

住所：〒963-883 郡山市小原田2-19-19

電話：024（953）6092 Fax：024（953）6093



※事務所前が駐車場になっています。

※郡山駅から徒歩25分、タクシー10分

※路線バスも走ってします。最寄りの停留
所は、小原田2丁目です。

ホームページ：

<http://www.utsukushima-npo.jp/>

メールアドレス：

uketsuke@utsukushima-npo.jp

2. 略歴

2003年 3月 2001年に開催された未来博の剰余金を用いた公益信託うつくしま基金の活用や申請をサポートする市民組織（任意団体）として設立。

第1ステージの始まり（2003年4月1日から）

2006年4月22日 難儀な諸事情があり、新しい体制で再出発

2007年9月27日 NPO法人として認証（10月4日登記）

2010 6月 1日 郡山市清水台から小原田に引越し。新しい事務所での活動開始

2011年3月11日 東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生

「郡山基地」「会津基地」「いわき基地」の開設・運営

6月20日 ふくしま被災者支援ネットワーク（絆ネット）の結成

8月1日 絆づくり支援センター（県内5箇所）の運営開始（事業終了）

10月1日 ふるさと絆情報ステーション（県内13箇所に設置）の運営など

2013年4月1日 ふくしまNPOインキュベーションセンター（F-NIC）の開設

2014年4月1日 郡山市市民活動サポートセンター（アシストパーク郡山）の運営開始（郡山市からの委託事業）

2017年4月1日 福島県地球温暖化防止活動推進センターの運営（福島県からの指定）

10月16日 福島県省エネルギー相談地域プラットフォーム（PF事業）の運営

2018年5月7日 「今田忠文庫」開設

2019年10月12日 ①台風19号による被災。床上31センチまで浸水。

2020年4月17日 CO2削減ポテンシャル診断事業診断機関として認定

6月20日 令和2年度通常総会の開催（役員改選など）

第2ステージの始まり（2020年4月1日から）

12月1日 ふくしまSDGsネットワーク（FSN）設立（主宰・事務局）

2021年2月13日 深夜に、②福島県沖地震（3.11の余震）

3月11日 東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故から丸10年

2022年3月16日 深夜に、③福島県沖地震（3.11の余震）

4月17日 赤間謙一副理事長、急逝

6月18日 通常総会を開催。定款の第4（特定非営利活動の種類）、第5条（事業）を変更。役員全員を再任。

2023年4月19日 うちエコ診断実施機関として認定

6月13日 こおりやま広域圏地球温暖化防止活動推進センターの指定

6月17日 令和5年度通常総会を開催

3. パーパス

パーパス（存在意義）とは、「存在理由」（レゾン・デートル）のことです。

当会のパーパスは、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故（3. 11）で甚大なる／非人間的な被害を受け続けている被災地・ふくしまのNPO等非営利セクターから信頼される／頼られるインターメディアリー（中間支援組織）であることです。

そのような立ち位置に立っているのか、自問します。自省でもあります。

当会の強みは、

- ① 多彩な人材が集まっていること
- ② 地域に、福島県内に、46都道府県に、多様で重層的な人的なネットワークがあること
- ③ 県央の郡山をハブ（軸）として、福島県内各地域にスポーク（放射状に伸びる線）があること
- ④ 対話の三要素であるロゴス、エトス、パトスを身につけることを、努力していること

等です。

私たちは、誠実に、丁寧に、深く、濃く、倫理規定に基づき、中間支援組織（インターメディアリー）の活動を実践します。頼りにされ選ばれ、「ソーシャルライセンス」を得ることができるPSF（プロフェッショナル・サービス・ファーム）を目指します。

4. 事業内容（定款記載の事業名）（令和4年度通常総会で変更しました。）

- (1) 東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故からの復興に係る事業
- (2) 福島県の7つの方部における地域づくり活動に係る事業
- (3) NPO等非営利セクターの設立・運営・経営・事務局に係る事業
- (4) NPO等非営利セクターの活動に資するネットワーク構築に関する事業
- (5) NPO等非営利セクターと行政との協働、企業との連携に関する事業
- (6) 地球規模の課題解決に係る事業
- (7) NPO等非営利セクターの活動に関する啓発・調査・研究・政策提言（アドボカシー）に係る事業
- (8) その他第3条の目的を達成するために必要な事業

※「NPO等非営利セクター」という用語について、引き続いて見直していく。

[2023年6月17日現在]

役員から一言

(諸橋鑑一郎さんから)

NPO等の非営利セクターの活動の活性化に向け、より専門性を高め、福島県の間支援助組織であることを意識し、地域社会の発展に寄与してまいります。

(蛭川靖弘さんから)

私たちは、NPO等非営利セクターのPurpose（存在意義）を常に追い求め、時代の流れに沿ってアウトプットする専門家集団として、社会のために活動を続けます。

(鈴木伸司さんから)

世情や時勢、求められるニーズに柔軟かつ迅速に対応する「地域の価値創造」のプロ集団として、皆様に寄り添いながらともに生きる豊かな社会を目指します。

(樋口葉子さんから)

ひとりにできることには限界があるけど、小さな力を集め大きなエネルギーに変え、誰もが「生まれてきてよかった！」と心から言える未来を目指します。

(鈴木隆将さんから)

福島県内のNPO活動や市民活動がより発展し、未来に向けて、誰一人取り残されない魅力的な地域となるよう、微力ながら貢献できればと思います。

(相楽昌男さんから)

私たちは「豊かな自然と安心・安全な社会環境」を目指し、「こころ豊かな文化・環境の実現」に皆さんと共に協働できるようサポートしていきます

(三田真理子さんから)

誰もが住みやすい地域社会を目指す私たちの活動に、地域住民の一員である外国出身住民のパワーも活かせるように、みんなで力を合わせ活動して参ります。

(鈴木和隆さんから)

私たちは、被災地・ふくしまで活動するインターメディアリー（中間支援組織）として、社会とNPO等非営利セクターから信頼される活動を継続します。